

2022年9月21日

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社

～三井住友海上駿河台ビル・駿河台新館の周辺緑地～

## 「自然共生サイト認定」実証事業において「認定」相当の評価を獲得

環境省が2023年から制度の開始を予定している「自然共生サイト認定」に係る実証事業<sup>※1</sup>において、三井住友海上駿河台ビル・駿河台新館の周辺緑地が、屋上緑化のモデル的取組みとして「認定に相当」<sup>※2</sup>との評価を得ました。

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（取締役社長 グループCEO：原典之）は、2022年5月から本事業に参画し、傘下の三井住友海上火災保険株式会社（取締役社長：船曳真一郎）が保有する緑地を、対象サイトとして申請していました。次年度の「自然共生サイト」認定に向けて、適切な維持・管理を継続していきます。

MS&ADインシュアランスグループは、国際目標達成に向けた「生物多様性のための30by30<sup>※3</sup>アライアンス」のメンバーとして、本実証事業への参画を通じて「30by30」の実現に貢献するとともに、自然環境や生物多様性保全を後押しする商品・サービス開発の検討を進め、「レジリエントでサステナブルな社会」の実現を目指していきます。

※1 令和4年度 自然共生サイト（仮称）認定実証事業（試行前期）

※2 自然共生サイト（仮称）試行版審査委員会から「試行結果として『認定』に相当」との審査結果を受けました。

※3 2021年6月のG7サミットで合意された国際目標の一つで、2030年までに世界の陸地と海洋の30%以上を保護・保全地域とすることを目指しています。2022年12月開催の生物多様性締約国会議COP15で採択される予定です。

### 1. 「自然共生サイト（仮称）認定実証事業」について

「自然共生サイト認定」は、企業等によって生物多様性の保全が図られている区域を保全地域として認定する仕組みです。本実証事業は、2023年からの制度開始に向けて、環境省が企業等の管理する土地を自然共生サイトのケーススタディとし、認証制度の運用上の課題を発見して改善を図ることを目的としています。

### 2. 当社の対象サイトについて

駿河台ビルおよび駿河台新館は、三井住友海上が本社を構える東京都千代田区神田駿河台に立地しています。駿河台ビルの屋上庭園は1984年の竣工時に設営しました。

詳細は [こちら](https://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/index.html) (<https://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/index.html>)

### <駿河台ビル・駿河台新館の周辺緑地の特長>

		
<p>都心の本社ビルのあり方として、「周辺環境との調和」を理念に掲げている。野鳥の飛来を目的とした樹種の選定やバードバスの設置、化学肥料や農薬に頼らない管理など、生物多様性に配慮した緑地づくりが特長。定期的なモニタリングも実施している。</p>	<p>皇居と不忍池の中間地点に位置し、分断された都市の緑地につながりを持たせ、都市域における生態ネットワークの形成に貢献している。 【データ提供：エコアセットコンソーシアム】</p>	<p>都心では珍しいヒメアマツバメが営巣し、一年中その姿を観察することができる。 【撮影：吉成 才丈 氏】</p>

<紹介ムービー>



「気候変動と生物多様性への挑戦～駿河台緑化プロジェクト～」をテーマに、駿河台ビルの屋上庭園・菜園やヒメアマツバメのコロニー等を紹介する動画です。三井住友海上オフィシャルサイトや三井住友海上Y o u T u b e公式チャンネルに掲載しています。

以 上